



# 学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和3年9月28日

第6号



## 「秋になったから葉っぱが多いのかな」

校長 神田 敏之

登校をしてきた1年生が落ち葉を掃いている私を見てつぶやきました。9月下旬に入り、児童通用門にある桜の木から毎日のように葉が落ちてきます。夜は涼しくなってきた、確実に秋に近づいているようです。

さて、「つぶやき」という言葉ですが、一般に言う「つぶやき」は独り言の意味だけで、言葉の価値については触れていません。しかし、私たちが使う学習の際の子どもの「つぶやき」は、価値あるものとして大切にしています。子どもたちは指名をされて発言をするだけでなく、心に浮かんだ疑問や感想などをふと口にすることがあります。これを私たちは「つぶやき」と呼んでいて学習の際に取り上げることがあります。

例えば冒頭に紹介をした「秋になったから葉っぱが多いのかな」という考えが教室で出されたとします。「そうだね」「わたしも気づいたよ」「夏休み前は、緑の葉っぱだったよ」と子どもたちの話が広がることでしょう。そして「ほかにも秋になったら変わるものがあるのかな」などと学習が広がっていきます。

生活科や総合的な学習の時間では、子どもの思いや願いが学習のきっかけになり学習が展開されることがあります。ほかの教科学習においても子どもの思いや願いを生かして単元計画を入れ替える場合もあります。いずれにしても新しい学習の導入は、唐突に「教科書〇ページを開いて・・・」と始めるよりも「この前〇〇さんがこんな疑問をもっていましたね」と始めたほうが子どもたちにとっても必要感が出ますし、何より取り上げてもらった〇〇さんは、うれしく感じ、自己肯定感も高まります。

子どもたちが「話したい」と次々と思いを述べ合う場面、ほかの人はどのように考えているのかを聞きたくなっている場面など、子どもたちが学習を自分事（じぶんごと）としてとらえて活動している、そのような学習をつくっていきます。そうすると子どもたちは自然に「つぶやき」を出せるようになっていきます。

そのためには、自分の考えを静かに聞いてくれる、何を言ってもばかにされないなど、子ども同士が安心して過ごせる学級の雰囲気づくりも大切です。9月の分散登校期間中は、人数が少ないことを生かして、話し方や聞き方の学習を意識しながら進めました。また、話すためには自分の考えをもたなくてはなりません。自分の考えをもつためには、どのように考えたらよいか、考えるための視点についても教えてきました。また、家庭学習や自主学習を通して「自分で学習を進める」という力を育ててきました。

10月から皆がそろっての学習に戻ります。9月に蓄えた力をもとに、子どもたちの考えを出し合い、話し合って考えを広げたり高めたりする学習を進めていきたいと思えます。